



| | |
|--------------|---|
| Title | 大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ12 まえがき |
| Author(s) | 桃木, 至朗 |
| Citation | 大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ. 2016, 12 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/62165 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

まえがき

本書は大阪大学歴史教育研究会の活動報告書の第12冊であり、同時に現在展開中の科学研究費プロジェクト「研究者・教員・市民のための新しい歴史学入門」（課題番号26244034、基盤研究（A）、平成26-29年度、代表：桃木至朗）の成果報告を兼ねる。

この科研費プロジェクトは、大阪大学における高大連携を通じた歴史教育刷新の取り組みの一環として、研究者養成だけでなく中等教育の教員養成、広く歴史学に関心を持つ市民などに必要な、歴史学とはなにをどうする学問でどんな意義があり、過去・現在にどう発展してきたのかについての大づかみな理解が提供できる、新しい歴史学の概論のモデル構築を目指している。それは、かつてのような「西洋哲学史（思想史）の一環としての歴史認識についての史学概論」ではなく、非西洋世界をも含み込んでいなければならない。また、急変する史料環境と「言語論的転回」を受け止めた上での史料批判などの方法論・理論、それに伝統的な政治史や経済史、文化史から環境史やジェンダー史など新しい領域までの分野ごとに、それぞれの概要と変化や課題を示すものになるはずである。

この科研費プロジェクトのメンバーは以下のとおりである（所属・職名は現在のもの）。

| | |
|---------|---------------------------|
| 研究代表者 | 桃木至朗（大阪大学文学研究科教授） |
| 研究分担者 | 秋田 茂（大阪大学文学研究科教授） |
| | 荒川正晴（大阪大学文学研究科教授） |
| | 飯塚一幸（大阪大学文学研究科教授） |
| | 栗原麻子（大阪大学文学研究科准教授） |
| | 後藤敦史（大阪観光大学国際交流学部講師） |
| | 小浜正子（日本大学文理学部教授） |
| | 田口宏二郎（大阪大学文学研究科准教授） |
| | 中村征樹（大阪大学全学教育推進機構准教授） |
| | 堤 一昭（大阪大学文学研究科教授） |
| | 水野祥子（下関市立大学経済学部教授） |
| | 向 正樹（同志社大学グローバル地域文化学部准教授） |
| 連携研究者 | 岡本充弘（東洋大学文学部教授） |
| | 佐藤正幸（山梨県立大学国際政策学部特任教授） |
| | 成田龍一（日本女子大学人間社会学部教授） |
| 主要研究協力者 | 大西信行（中央大学杉並高等学校教諭） |
| | 置村公男（六甲中学校・高等学校教諭） |
| | 後藤誠司（京都市立日吉ヶ丘高等学校教諭） |

毛戸祐司（京都府立田辺高等学校教諭）
小林克則（NPO法人神奈川歴史教育研究会副理事長）
笹川裕史（大阪教育大学附属天王寺中学校・高等学校天王寺校舎教諭）
庄司春子（同志社中学・高等学校教諭）
中村 薫（大阪大学・同志社大学非常勤講師）
吉嶺茂樹（北海道有朋高等学校教諭）
特任研究員 高木純一
宗村敦子

以上のメンバーが、大阪大学歴史教育研究会に参加しているその他の大学・高校教員、ポスドク研究者や大学院生による事務局などと協力しながら、研究活動を進めているのである。

上記科研費プロジェクトの第二年度となる2015年度は、前半の月例会で昨年本研究会が編集・刊行した大学教養課程向け教科書『市民のための世界史』（大阪大学出版会、2014年4月）の合評会を行い、同書の内容や、同書を活用した授業実践の方法をめぐって議論を深め、後半にはプロジェクトメンバーによる、分野ごとの概論構築に向けた研究報告を開始した。そのほか、大阪大学内外の歴史研究者や高校教員、阪大院生による研究報告も実施した。また月例会以外の場では、2015年7月に設立された全国組織「高大連携歴史教育研究会」に多くのメンバーが入会し運営に参画したほか、堺市博物館をはじめとする外部組織と連携した活動も活発に展開した。本書には、こうした本年度の成果の一部として、前掲の『市民のための世界史』と現行の高校教科書の記載内容の比較を踏まえた、大学院生による研究報告を収録している。なお、研究活動に関する詳細は、巻末の活動記録を参照されたい。

最後に、2015年度の活動にあたり参加・協力して下さった研究者、院生・学生、高校教員、事務職員ほかすべての皆さんに、あつくお礼を申し上げたい。

2016年3月 桃木至朗